



"有事発生！DCの運用どうしたらいいの？"

一般社団法人確定拠出年金推進協会

2022/4/25 配信

DC ニュースレター

2022年2月24日、多くの識者の予想に反して、ロシアのプーチン大統領はウクライナへの侵攻を決断、攻撃を開始しました。テレビでは連日、現地の状況が報道されています。戦火の人々の安全と、一日も早い事態の鎮静化を願うばかりです。

ところで、今回のような、いわゆる「有事」の発生時、確定拠出年金の運用はどうしたらよいのでしょうか。配分指定後、普段は運用を「ほったらかし」にしている人も、何か特別なことをしたほうがよいのでしょうか？

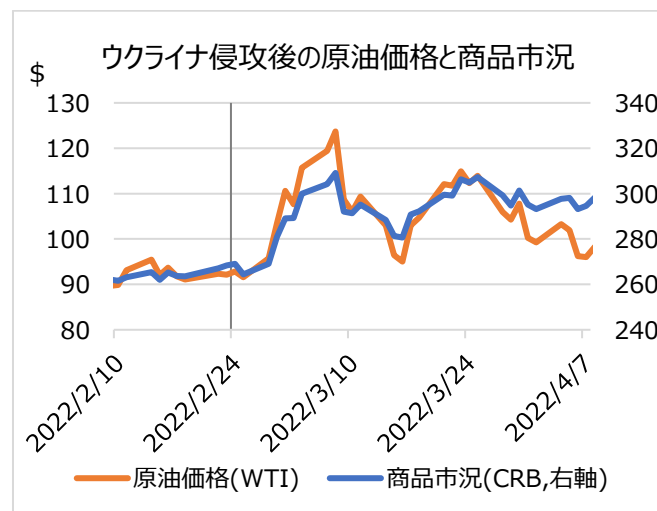
世界経済への影響は？

まず、今回の有事が、投資環境にどのような影響を与えるか、整理してみましょう。

重視すべきは、世界経済に与える影響です。被災地であるウクライナは経済的なダメージを受けることは必至です。また、戦地に資源を集中するロシアにおいても、経済活動に幾らかの影響を受けることになるでしょう。ウクライナの近隣諸国も、有事による緊迫感から経済活動が平時より不活発になるかもしれません。

加えて、先進諸国から経済制裁を掛けられたロシアは、海外との交易を大きく制限させられることになり

ました。この影響は、ロシア経済だけに留まりません。ロシアは鉱物、森林、水産など豊富な天然資源を有し、特に石油と天然ガスの生産と輸出に関しては世界有数のエネルギー大国です。経済制裁により、こうしたロシアの資源が世界へ十分に供給されない状態になりました。原油取引市場や商品市況では、ウクライナ侵攻後に資源価格が上昇し、世界的にインフレ圧力が高まっています。



長期分散投資が DC の基本であることを忘れずに

では、こうした有事下、DCの運用は、どう取り組みれば良いのでしょうか？

みなさんの中には、値下がりしそうな運用商品をあら



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら
TEL 03-5689-3358
MAIL 401k@member.deco-pa.com

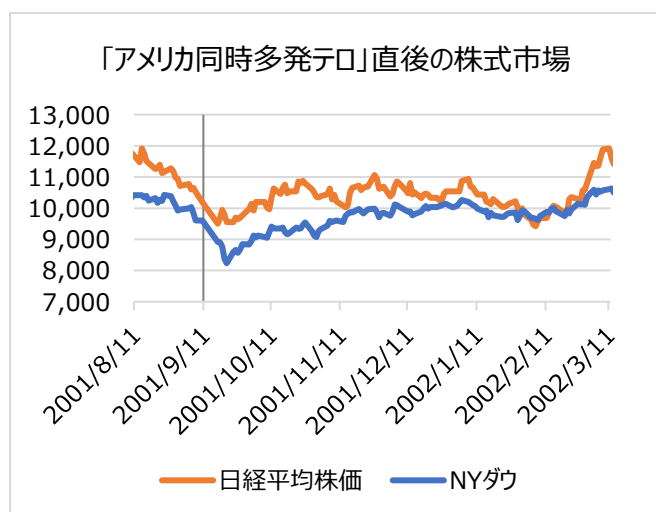
一般社団法人確定拠出年金推進協会
東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F
<https://www.deco-pa.com>



はじめ売却し、値下がり後に買い戻せばよいのではと考える人もいでしょう。確かにそう出来れば、資産を増やすことに有効です。でもそれは、運用のプロでも難しいオペレーションです。

有事が投資環境に与える影響を予想するのは非常に難しいです。ウクライナ情勢の短期の鎮静化が難しいとしても、今のような激しい戦争状態が今後何年も続くとは考えにくいでしょう。この状況が世界経済への程度の影響を与えるか予測するのもなかなか困難です。第三次世界大戦などという最悪のシナリオにならない限り、世界経済が大きく落ち込む可能性はそれほど大きくないかもしれません。

参考までに、2001年9月11日に起こった「アメリカ同時多発テロ」直後の、株式市場の動きをみましょう。



9.11のテロ勃発直後、世界の株式市場は大きく下落しました。しかしながら、数か月後には落ち着きを取り戻し、当時各地で頻発したテロ活動にも市場はあまり左右されなくなりました。

もちろん、今回の有事は同時多発テロとは異なり、投資環境に与える影響も、もっと大きなものになるかもしれません。DCの運用商品の中にも大きく値下がりするものがあるかもしれません。

しかしそれも、長い年月を掛けて行うDC運用においては短い期間の出来事です。長期分散投資がDC運用の基本です。短期的な相場の乱高下にあわててはなりません。普段行っていない特別なことをしようと思っても、上手くいくとは限りません。もし投資している運用商品が値下がりしても、次の拋出時に安く買えるからいいやと、余裕をもって構えるのもよいでしょう。あくまで、将来の退職・給付時までに運用資産が増えていけばよいのです。

これも何かの機会、気になったらチェックしましょう

けれども、普段は運用をほったらかしにしている方にとっては、今回は良い機会です。気になったが吉日、運用状況や投資環境をぜひチェックしておきましょう。以前とは違った発見があるかもしれません。

例えば、コロナからの景気回復が進む海外などでは、インフレ圧力も影響し、金利が少し上昇してきました。日本とアメリカの10年国債の利回りの差でみた金利差も広がってきたので、外国債券への投資の魅力が増しているようです。利回りの低さから今まで外国債券へあまり投資していなかった方などは、配分比率の見直しを検討してみるのも手かもしれません。

